

プレゼンテーションゼミ資料

知的システムデザイン研究室 プレゼンチーム
吉田 森本 横田

1999/4/13

1 効果的なプレゼンテーション

1.1 制限時間を守る

これは基本です。どんなに良いプレゼンテーションをしても、時間が来ているのに発表を続けることはルール違反であり、せっかくの成果も台無しです。制限時間がきたらたとえまだ話し終わっていないことがあっても大急ぎでまとめ、質疑応答を受け付けるようにします。

1.2 自然な流れで結論に持っていく

プレゼンテーションを聞いていてもその内容に論理的な欠陥があれば聴衆を納得させることはできません。

1.3 結論を明確にする

相手に納得してもらうのが目的のため、結論を明確にすると曖昧なものよりも効果倍増です。

1.4 相手に次は何かという興味を持たせる

相手に物事を伝えるのには相手の興味を引くのが一番の近道です。必ず掴めるとは限りませんが「次は何だと思えますか」と相手に考えさせたり語りかけたりするのも良い方法です。

1.5 画像や音を随所に加える

視覚的にも理解しやすいように随所に画像，アニメーションをとり入れ，加えて良いサウンドを取り入れるなどより見易い，解りやすいプレゼンテーションが作れます．しかしフォーマルな場所でのいきすぎた表現は禁物です．あくまで目的に添ったものを作りましょう．

加えて注意すべき点は，画像を加えたことによって起こる画面のちらつきです．強いコントラストを強調しすぎることや，背景によって字が見えにくくなることがあります．これは実際にスクリーンに出力した場合とコンピュータのディスプレイに出力した場合とでは感じが異なる場合があるのでこれも注意．

1.6 人当たりの良い，丁寧な態度で接する

声を大きくはっきりと抑揚を付けて．また紳士的な態度で．基本的に標準語を使いましょう．

1.7 スライドの投影位置は一番上に

後ろの人にも見えやすいように，という配慮も効果あります．

1.8 準備は念入りに，リハーサルはきっちりと

プレゼンテーションの制限時間はきっちりとすべきですから，予め所用時間を計っておくことは余裕を持って勤める為にも重要なことです．本番には何が起るか解りませんからやって損なことはあまり無いと思います．リハーサルを行い，他の人に見てもらうことによって新たな問題点が見えて，より失敗が少なくなると思われます．また，本番はどうしてもあがってしまう分，時間がかかってしまうので，リハーサルでは余分に時間を取る方が良くもありません．

1.9 質疑応答にはしっかり答える

ここでは失敗しやすい質疑応答について詳しく検討します．

1.9.1 答えを十分に用意する .

全ての質問を前もって予測することは不可能ですが、「ここを突かれると一番痛い」という質問については予め準備しておく必要があります .

その他 , 質問が予想される事項については資料 (新たなスライドページや OHP シート) を用意しておくのもプレゼンテーションを印象づけるのに有効です .

1.9.2 質問しやすい雰囲気を出す

聞き手が参加しやすい場を作るためにも , 質問を許さないきびしい雰囲気よりは質問しやすい口調にする方が , よりは効果があります .

1.9.3 よく聞いて , 質問されたことに的確に答える

プレゼンターという立場上話すことに熱中しすぎて聞くところをおろそかにしがちです . 相手の言うことにも注意深く聞き , 相手の , そして自分の為にも納得のいく満足な回答をしましょう .

1.9.4 答えを組み立てる

前置きでは会場にいる他の聞き手のためにももう一度質問内容を整理確認し , この質問の重要性などについてコメントします . 本体では , 適切な情報提供をしつつ , 質問に直接答えます . そして , 最後に回答のポイントを短くまとめ質問者はこれで良いか確認するとより良いでしょう .

1.9.5 簡潔に答える

簡潔に答えることによって答えが分かりやすく , 1 つの質問に長時間かけるとい事はなくなります . しかしもちろん , 上で述べたように答えを組み立ててから回答することを怠ってはいけません .

1.9.6 礼儀正しく応答する

どんなにポイントのずれた質問でも嫌がらずに礼儀正しく回答しましょう . そうすることにより , より聞き手も近寄ってきてくれます . 間違っても邪険に扱わないように .

1.9.7 答えを勝手に作り出さない

いつも質問に答えられるに越したことはありませんが、答えられない場面もきっとあります。そんな時間違って勝手に答えを作り上げてはいけません。勝手に答えを作り上げてしまうと倫理的問題もさる事ながらあなたの自信の無さが浮き彫りになり、さらには信用を失ってしまいます。

1.9.8 答えが分からなければ

選択肢としては

- 正直に知らない旨を伝えた上で後日調べて改めて回答する。
- 聞き手全体に問いかける。

後者は質問に対するあなたの関心を示すと共に聞き手全体をプレゼンテーションに参加させる効果があります。但し勇気の要ることですが…。

どんな時にも困らず焦らずに対処することです。質問が出るということは、反対に質問の1つもでない発表よりは盛り上がったプレゼンテーションができたということも表してるのですから。